

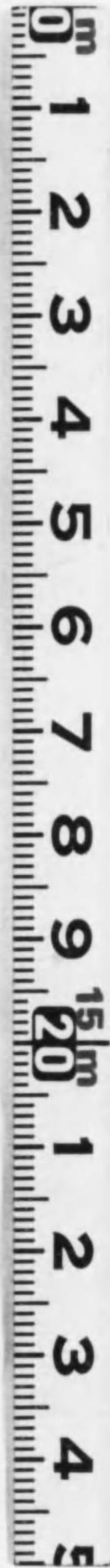
特 240

763

輯十三第書叢傳宣合組業產

農 村 婦 人 之  
產 業 組 合 運 動

產 業 組 合 中 央 會



始



特 240  
763



例 言

働き手として、主婦として、母性として多面的な苦惱、桎梏に喘いでゐる女性をヨリ良き地位に向上させるべき社會的任務を有する産業組合婦人運動は他の産業組合運動に比較して甚しく跋行的であり開拓すべき餘地がある。

かかる時に當つて本會丸岡秀子氏に依り平易簡明に執筆せられたる本書を發行し得ることは最も有意義と信ずるところである。全國の産業組合關係者は勿論、産業組合婦人運動に依り社會的向上を圖らんとする全女性が本書を有効に利用せられんことを希望するのである。



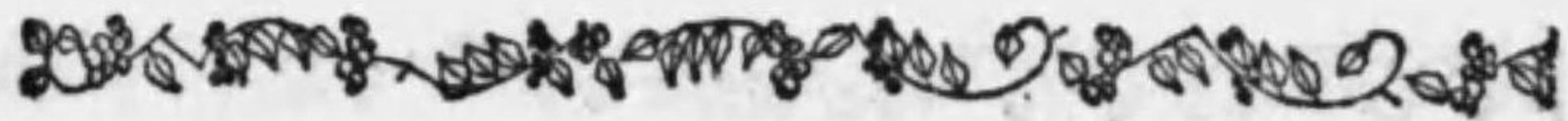
昭和十二年九月

産業組合中央會



目次

- 一、はしがき……………(一)
- 二、母性の苦惱とその施設……………(三)
- 三、竈をあづかる主婦とその施設……………(一六)
- 四、野良で働く婦人とその施設……………(三六)
- 五、その他の生活……………(五)
- 六、産業組合と婦人の組織……………(三九)



## 一、はしがき

農村婦人は第一野良で働きます。第二に竈をあづかる主婦の仕事があります。又第三には子供を生み育てる母としてのつとめを持つてゐます。この何重もの負擔を背にしながら働き續けてゐます。それを満足に行ひ難いところに、苦惱の原因があると思ひます。

今年の産業組合大會は名古屋で開かれましたが、この大會では今迄聞かれなかつたやうな叫びが出席者の中から勇敢に出され、熱心に議論されました。即ち「今後組合の活動方針は組合員の實際生活に即したものでなければならぬ」といふことです。

全く、こゝろいふ方針に基いて具體的な活動がなされ、着實に守られることなくしては、農村婦人の持つてゐる何重もの苦しみを軽くし、そこから婦人の自覺の芽を伸ばして行くことは出来ないでせう。

尤も、こゝろいふ何重もの苦惱を徹底的に減ずるには、婦人が參政權を得て、政治的な發言權を持つことが重要でせうが、産業組合婦人運動としても、獨自に、又産業組合運動其の他と協力してすることの出来る未開拓の分野が澤山あります。

だが、何しろ産業組合運動の一部として發達の緒にいたばかりのところであるだけに、播藍期にある貧しい存在を過大に評價することは來出ません。冷静にみて母屋である産業組合運動の持ついろいろな困難なり、矛盾なりがそのまま産業組合婦人運動に移される憾みも無いとは申しません。併し又、他方、産業組合運動が昭和五年の恐慌以來、農林省の經濟更生運動が開始されるや、その主なる擔當者となつたために急速に活潑となり、ますます窮迫しつつある大衆のいろいろな要求の昂りつゝある現在に於て、量的にも參加者は増加し、質的にも大衆への接觸が要求され、それに伴つて婦人運動の占める地位も、量的に又質的に昂まりつゝあることは否定出來ないところでありませう。

例へば産業組合の事業がますます擴大されるにつれて、婦人とのつながりが愈々切實な問題となつてゐることは、よくわかつてゐることです。以前には村へ入つて行つても、「信用組合は何處ですか」と聞かなくてはならなかつたのですが、現在は只「産業組合は？」と聞いても「購買組合は？」と聞いても、すぐそれとわかる位に組合事業が農村民の色々な經濟生活に喰ひ込んでゐます。こんな時組合の手がまだ及んでゐない婦人の經濟生活の中にまで組織の手を擴げ、その利益を計るのは當然のこととせう。

従つてその重要性は同時に決して過少に評價さるべきでもないと思ひます。

こう考へて來ると現在の産業組合婦人運動は、輕々しく農村婦人の生活の向上に資す處なしと斷ずるのも間違ひならば、又資するところ多しと斷ずるのも樂觀に過ぎると考へます。これからの大きな經濟の主流の變化によつて、その動向は微妙な影響も受けるでせうが、やはりこれが發展如何は農村に於ける婦人の生活から滲み出たところの要求を突きとめて組織活動なり、社會活動なりを起すことの程度如何で決せられるものでありませう。かく活動することは充分に可能でありますし、こうして組合員の家族の一員としての婦人ばかりでなく、社會の働く婦人の一員としての向上なり、消費婦人の向上なり、母性の向上なりに資することこそは、産業組合婦人運動がもつ最上の社會的任務といつて良いでせう。以下それらの婦人の向上の個々の姿と組合との關係について略述することにします。

## 一、母性の苦惱とその施設

—産褥の苦しみ—

先づ第一に母性としての苦惱とそれに対する施設について考へて見ませう。これは女性だ

けが持つ苦しみであるだけに、その解決は第一義的なものでせう。尤もそれも徹底的な解決は貧困の累積を廢止出来るものと同一手段によらなくてはならないでせうが、組合婦人運動に於ても有効適切な方法が考へられなくてはならないと思ひます。

全く健康な次の時代を擔ふ子女を生み、それを育てる母としての負擔、これは婦人にとつては生得的のものですから、そのつとめを完全に果すことの出来るやうな條件が與へられるやうに社會に向つて婦人が要求する權利があるわけですが、實際はこれと反對にこの負擔の故にこそ「婦人の天職」の名の下に却つて不利な地位に追ひ込まれてゐるといふのが掛値のないところでせう。それが特に農村婦人、中小貧農層の場合にはひどいのです。

「婦人に産褥の苦しみがあれば男子にも戦場の苦惱がある」と議論される場合もあります。農村婦人を御覽になればどんなに彼女達が人類の最も深い苦惱ともみられるこの二つの苦惱、産褥と戦場の何れにも何故無關心でゐられないかおわかりになると思ひます。

多産のもつ凡ゆる惨めさ、このうちに喘いでゐるのが農村婦人の姿であります。十三歳以下の農村兒童とその母、合せて約一千三百萬人といふ多數が内地だけでも惨めな生活をしてゐます。だから同じやうに働いてゐる婦人の中でも農村婦人が一番多く産褥熱や、妊娠中毒で

死んでゐます。その原因は一體どこにあるのでせうか。

先づ農村婦人の多産なことは、倉敷労働科學研究所の岡山縣下農村調査によりますと、平均妊娠する回数には五回といふ數字が何よりもよく證明してゐます。さてこの妊娠回数を四回以下と五回以上に二大別して子女の死亡率を見ますと、前者は一七パーセントに過ぎませんが、後者は二七パーセントといふ開きをみせてゐます、なほ都市に比べると妊娠回数も五―六パーセント高く、子女の死亡率は二―三倍以上高いのです。又死産、流産率も高い比率を見せてゐます。

もちろん妊娠回数が多いのですから、一つのお産と次のお産との隔りは短くなります。又強い増殖力を示す二十歳から四十歳までの間を比べてみましても、母體が年をとるほど子女死亡率や、死産率は高くなつてゐます。

年をとり、お産が重なり、それを育てる責任が益々加はり、しかも野良働き、内職、家事も減るところでなく、ますます家族の増加につれて多くなる、従つて糊口をしのぐことが困難となり、いろ／＼な無理が起り、外見だけでなく、氣持の上からも若さを失ひ、女性生活と生存のための労働との動きがとれなくなり、その板挟みとなつて身體を磨り減らして行き

ます。この板挟みが極端になれば、往々、お乳が少なかつたり、出なかつたりし結局出生が増すにつれて母乳は枯れ、人工栄養、混合栄養の必要が増して参ります。

―出産前の休養をとりたい―

又、倉敷の調査をみて一番驚くのは出産前に何んの休養もとらずに出産当日まで働きつゞけてゐる婦人が百人の中九十七パーセントもゐることです。しかもその働きの種類は半分近くが田畑や、養蠶といった生産面の仕事です。臨月の重い體を水につけ、しやがんでお腹を壓迫しながら田植を、草取りをしてゐる婦人の姿は私達の目にいく度も映つてゐますが、出産前の休養はぜひとれるやうにしたいものです。

―非衛生的なお産―

尙ほ倉敷の調査をみると、お産をする時、初生児のためにはたか／＼粗末な着物、襦袢、寝具、襦袢の四種が準備される位に過ぎず、きれいな衛生材料は全く無く、殊に産婦のために用意されたのは脱脂綿、油紙の二種類だけで、丁字帯、ガーゼ、胞衣袋、汚物の始末用具、消毒劑等は全く無かつたさうです。そして百件の中、三十七件迄が家人又は産婦自身が初生児と産褥の後仕末をしてゐる相です。その處置の方法がどんなに非衛生であつたかは調

査に當つた人々の氣持を寒くさせたといふ調査者の述懐が書かれてゐます。

それにまだ東北地方の山間部などへ参りますと、疊を上げて板の間に藁を敷いてその上に産み落したり、部屋の眞中の疊を一枚だけ除けて、筵を敷き、古布を擴げて坐るといつた習慣がいまも強く残つてゐると聞いてゐます。

―出産後も不養生―

また出産後も醫者は三週間に休息しろと申しますが、農村婦人の七割以上は一週間以内に床を離れるのです。尙ほ分娩當日に起き上つてゐる者を合せると、全體の約七割に達する始末です。つまり過半数は分娩後二十四時間の安静さへ保證されてゐないのです。現に産褥一週中に洗濯を初めた者が全體の約八割にも上つてゐます。兎に角、二週間たつても野良働きの出ない者は百人の内三〇人と居りません。大部分は一週間前後で就業します。

昨年の七月一日の北海タイムスに農村診療を了へた醫師の報告が次のやうに載つてゐます  
「著しく目立つのは女に頭痛の多いことである。農家の主婦が産後十分の静養をなす餘裕がなく、無理して田畑稼ぎに出るためである。數年前或る地方で一農婦が分娩後間もなく青豌豆一俵を擔いで一里の道を歩き、遂に婦人科疾患からその後起居の自由を缺くにいたつた

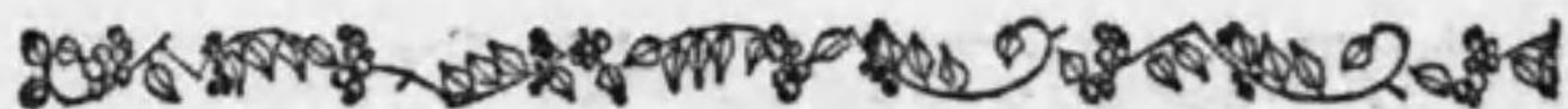


産褥から共同耕作をみてゐるところ

極端な例さへある程で一般に農家の婦人は  
氣の毒な位る過勞に陥つてゐる」と。

—共同耕作の必要—

こんな時に、産前産後の十分な休息をと  
る爲部落婦人會が共同耕作でお互ひ援け合  
へるやうにしたら産婦も、安心して寝て  
られるでせう。産業組合婦人會でも數こそ  
少いがこゝにいふ相互扶助を中心結ばれて  
ゐるものがあります。どんなに休みたくと  
も、自分が寝てしまへば田島の方がおくれ  
ることを氣にすると到底安心して床につ  
てゐるわけにゆきませんが婦人會が中心に  
なつてこれを援けてこそ、初めてゆつくり  
と静養することが出来ると思ひます。産業



組合婦人會はこゝいつた方面にも力をつくして行きたいものです。

—産後の食物—

また見逃せないのは、産後の食物に白米のお粥が喜ばれてゐることです。これはまた何と  
いふかすかにも小さな喜びでせう。平生は麥、稗などしか食へないやうな場合の喜びが手に  
とるやうに想はれます。お醫者の希望するスープ、牛乳、玉子、鯛、カステラ、水飴等を攝  
るなどといふことは單なる夢物語に過ぎない位です。

同じ農村でも山村に近づくにつれて窮迫の度は一層強くなるものですが、一般の農村でも  
困つた小作人層、どん底層では、婦人が早く子供を生めなくなる者が多いやうです。それは  
避妊の結果ではなく、専ら激勞、疲弊から生じた現象であらうと思ひます。

—子供の哺育—

これについても母親は辛い矛盾を味ふのです。母體が悪いから子供も弱く榮養がとれない  
ためにそれが骨格にまで作用して愛兒がみす／＼個體病に罹るのさへどうにも手の下しやう  
がないのです。忙しい野良仕事や内職のために嬰兒は籠に一日おしこめて置かねばならず、



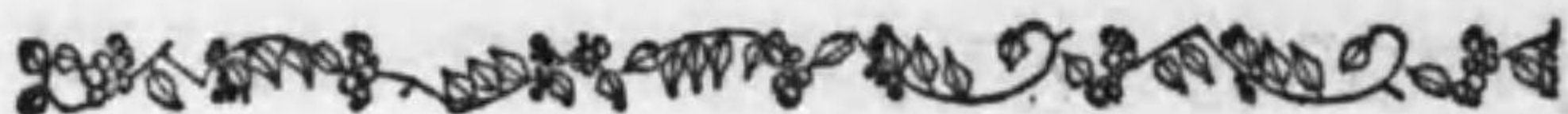


田圃で乳をのませる母

濡れたお襟裾も満足に代へられもせず、又田圃へ連出すにしても、木の根株に縛りつけておかねばならず、田の畦を這ひあるき草の葉をむしつて口に入れる子供、虫にさされて泣く子供、獨りで母を待ちわびて暗い臺所に打伏す愛児を一々かまつてもゐられはせず、徒らに人知れぬ涙を拭く氣持こそは母親なればこそ味はねばならない辛さです。

— 味噌汁を與へてゐる婦人會 —

又、子供が小學校に通ふほどに成長しても辨當さへ持たせてやれない時の母親の心痛はどうでせうか、けつじく 欠食兒童については懼らく私がこゝで冗々しくいふ必要がな



味噌汁を與へる婦人會

いほどで、昭和九年の全國小學校で給食してゐる兒童の數だけで約六十萬人あつたと云ひます。

だから産業組合婦人會で芋や大根を持ち寄つて學校の女の先生と協力して辨當のお菜を作つて與へてゐる所、又は味噌汁を毎日作つて與へてゐる所などあり、そいふ所ではだん／＼子供の顔色や、艶がよくなると聞いてゐます。

— 身賣の問題 —

又、小學校卒業前後になれば、子供の身賣りといふ問題が起きて來ます。遠い製絲工場の女工、女中子守、藝娼妓、酌婦、女給等に自分の子供を送り出す時の母親の心はおそらく死の苦しみでせう。東京などで所謂「人買ひ」に連れ歩かれてゐる小學校を出たばかりの農村子女の群、新聞にも載らない哀話



身賣り娘

の持主の如何に多いことでせう。また年末の凍えつくやうな冬枯れの東北寒村の小さな驛に子供とせつなげに別れを惜しむ貧しい母親の姿は車窓の旅行者に賜を断つやうな想ひを抱かせることでせう感情も磨滅し、生活にも諦め切つたやうな農村の母親が「こればかりは」と諦め切れない眼で都の人々に連れられて村を出る娘の後姿を逐ふ瞳を何度か見かけて来ました。

―母性苦の軽減のために活動を初めた

婦人会―

現在、産業組合婦人運動が母性としての農村婦人のために活動してゐる事例は

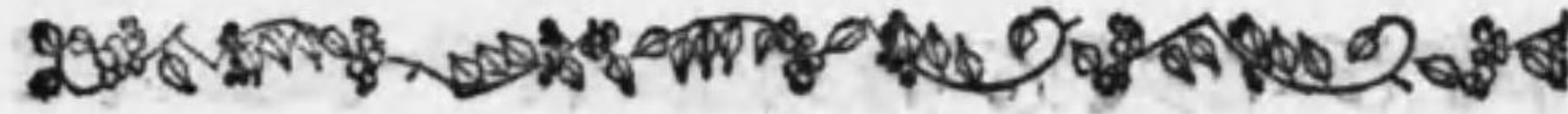
残念ながら、その必要の程度に比しお話にならない程度に貧弱です。だが、それが近年、かなり増加しつゝあることを見ますと、いかに切實な要求がかくされてゐるかを痛切に感じます。おそらく私達としては、全面的な女性の地位改善の第一歩として、もつと母性の要求にピツタリ適合した仕事をこれから始めたいと望んでゐます。

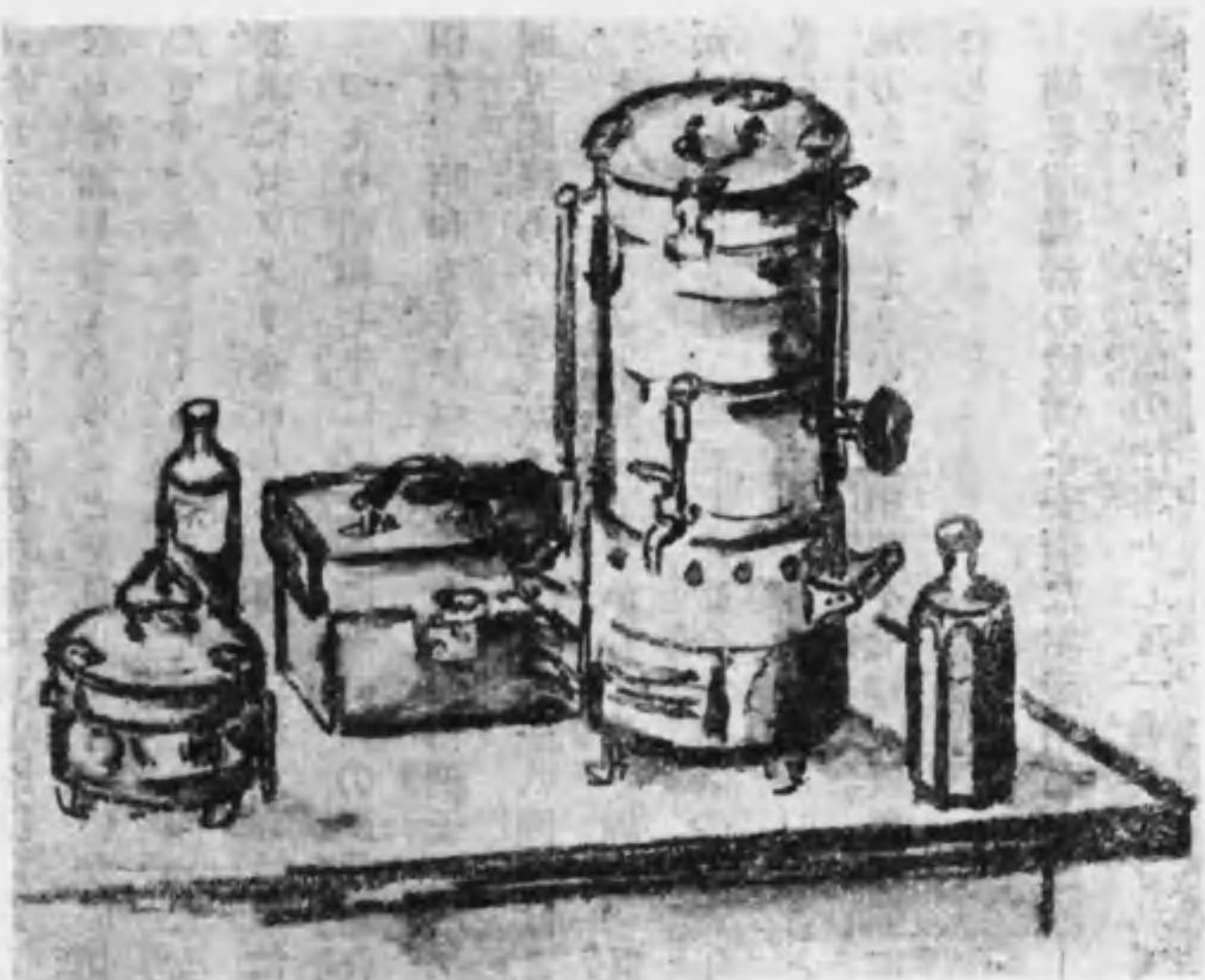
つまり昭和七年には全国に一一六の産業組合婦人組織が殖へてゐますし、昭和八年には一四六、昭和九年には一〇六といつた調子で増加してゐます、そして昭和九年末には全国で八四九團體ありますが、このうち五一八團體はこの三ヶ年間に出来上つたものなのです。

まだかような出發期ですから、産婆施設、託兒所施設は、一〇を超えない貧弱さです。だが、最近各地で眞面目な組合當事者や、青年達が婦人の問題に深い關心をよせ、殊に母性苦の軽減のためにどうしたらよいかといふことを熱心に研究されるやうになりました。現に地方から、そつといふ御相談を受け、既に準備にかゝられたといふニュースなども時々耳にいたします。

―簡易消毒器の設備と安價なお産用品の配給―

現在、この方面の仕事として一番要求されてゐるのは、お産の時の簡易消毒器の設備と安

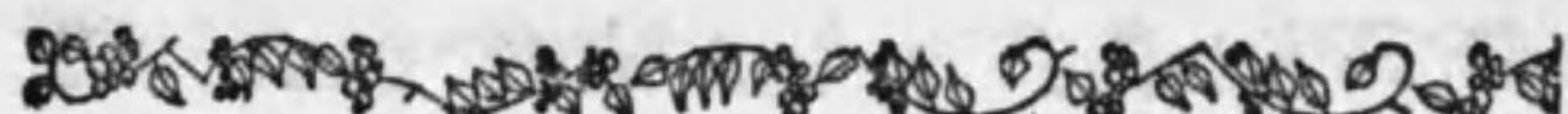




簡易消毒器

い農村向きのお産用品の配給などです。倉敷労働科学研究所などもこういふ意見を前から発表されてゐます。農村では「産ボロ」の名前がある程にお産にボロが使はれます。それもやむを得ぬ事と思ひますが、それにしても、それ等のボロを消毒して使用するやうにすることは、当面一番大切な問題だと思ひます。若し婦人會がこの問題をとりあげて組合の利用部に備へつけて貰へるやうだつたらどんなに婦人が助かるかわかりません。

又、全購聯あたりで安いお産用品の一包みを考案して配給されるやうになつたら、農村婦人の母性苦に大きな寄與となる



でせう。

— 便利な託兒施設 —

たゞ農村のことですから始めから農村婦人の近づき難いやうな設備も困るでせう。例へば忙しい農村の母親たちには託兒所にやるのに却つて鼻の下をふいて出してやつたり、前掛けを洗つてかけさせてやらねばならなかつたりすることは、やり切れないことです。そんな氣がねもさせずに食事を與へることまでも心配してやれるやうな託兒所が何より必要であらうと思ひます。

— 組合當事者と協力する婦人會 —

託兒所にしても、共同産室にしても、簡易消毒器にしても、組合など、協力して、資金の心配などして貰つたりしながら、婦人達が部落單位なり、町村單位のものを組織することは大してむづかしいことではありません。

農村婦人は、自分達の母性生活の矛盾を一家の貧しい家庭の内では解決することは出来な

それと手を携へてどん／＼そうした仕事に進出して欲しいものです。出来れば各自の母親達がより集つて、そういう組織を部落別に作り、だん／＼擴大して行くのが勿論一番良い方法と思ひますが、全部がそういう方法をとることも出来ませんでせうから、熱心な組合の當事者達のゐられるところでは、その方々と相談して組織して行くことも大切でせう。だがそれに一切任せきりといふやうなことは、婦人運動の立場として、決して最上のもではないと思ひます。

### 三、竈をあづかる主婦とその施設

―家計のやりくりに身まくだく主婦―

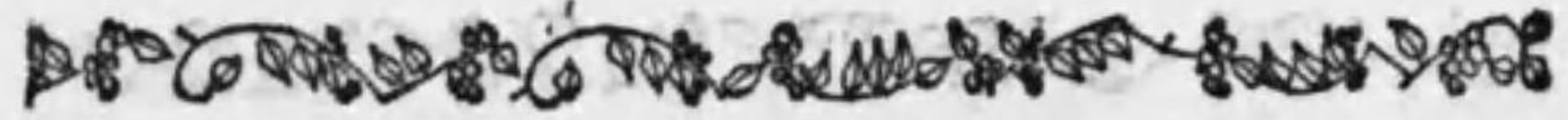
母性としての農村婦人の苦しい立場を改めて行くと共に、竈をあづかる主婦として、農村婦人の苦しい立場を改めて行くことも、農村産業組合婦人運動の大きな仕事であります。農村の主婦は都會の主婦とちがつて色々な改善を要する生活苦を負担してゐます。

先づ農村の主婦の生活について簡単に觸れてみませう。貸銀生活者とちがつて中小經營者は商人の場合でも農家の場合でも、家計と營業の境目がハッキリ區別出来ないものです。農

家の場合には殊にそれが甚しいのです。商家の收支は大抵現金ですが、農家のは自給部分が半分もあるといふ所に特徴があります。殊に農家の婦人の立場は直接に男なみに一切の勞働に参加してゐるだけに、家計ばかりか、經營の收支に對してもなかなか關心が強く、この點でも苦しい懐中のやり繰り、一家の全部の出入について氣を配ります。例へば肥料の代金から農産物の價格にまで主婦は人知れぬ心勞を費すものです。

農村の主婦に一番樂しみは何かと訊くと、「秋の收穫時」と答へ、一番辛いものは何かと訊くと「凶作」と答へるのがつねですが、そんなことの裡にも婦人の關心が家計ばかりに限られてゐないことが理解されるでせう。夜半の風の音にも稻の出來榮えを案じ、桑の木を思つて獨り起きて田畑を見まはつて來るのも、自分がまた直接生産に参加する一員であればこそでせう。殊に小作農の場合は、いくら米を作つても約半分は小作米を收めますから、残りの半分でやつと自家消費米が出る位が落ちです。ですから、残つた半分でどうしても自分が食へない場合、つまり凶作などは最も極端におそれるといふことになります。

兎も角、農家の家計は貧しく小さく、弾力性が無く、従つて主婦が家計のやり繰りにどんなに身を碎くか。

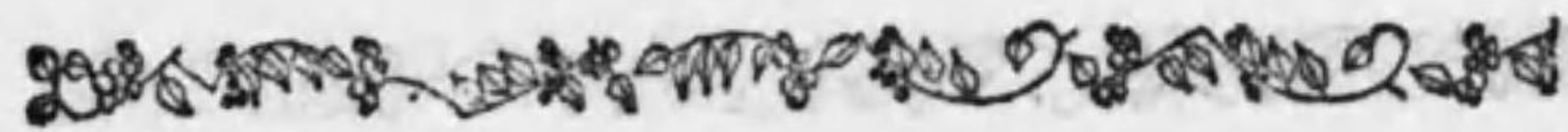


試みに農林省の調査（昭和九年農家經濟調査）を見ますと、農家の家計費の一年間の總計は小作農が、自給分も合せて約四五〇圓となつて居ります。その家計費を賄つたあとは一圓八十錢しか残つてゐませんが、しかもこの調査農家は、農業者らしい體裁を一應具へてゐる上、部であると云ひますから、一般の農家の貧しさは推しはかることが出来ます。殊に現金の収入は僅かに三〇〇圓しかありません。更にその約半分は内職や出稼ぎ収入等いづれも農業外の収入です。

### 米と主婦

この僅かな収入で婦人はどう家計の辻褄を合わせるでせうか。こんな小額ですから家計の半分以上は飲食費に費はれて了ひます。一體に文明人ほど飲食費の家計費中に占める割合、米の飲食費中に占める割合は少くなるのですが、農村ではそれがいづれも非常に高率なのです。つまり食ふだけにいつも追はれてゐる生活です。その真相は米のやりくりと米の代用食の有無、その種類等を見るとよく解ります。

つくつた米の中で、良質米は小作料や賣る爲めの米に充てますから、食用として残るものは先づ悪質の屑米です。ひどい場合には肥料代や借金元利の催促をされて、いやが應でも收



臺所

穫されるが早いか、持つてゐる限りの米を安値で賣り叩いてしまひ、あとになつて食べる時に高い値で悪質のものを少しづつ買ふといふ關係、つまり「賣るに損、買ふに損」といふ關係さへも生じて參ります。ほんとにさうでもしないと翌年作る肥料さへ手に入らないから、泣く泣くそうした不利

益も忍ばなければならぬわけです。全く明日働く力を養ふだけの米にさへ、それを作つた身分でありながら、ありつけないといふ實情です。東北などでは、麥、稗、粟、芋と米の混食の方が普通とされてゐます。岩手縣盛岡、友の會が發表された「田山村の生活」を見ますと、その主

要食は米と稗ですが、それさへ不足してゐる者が、全農家の六割八分といふ大多数です。その代り何を食べてゐるのかと調べて見ますと大根、蕪、南瓜、黍、そば、小麦、等々のうちはまだよろしいとしても、ふすま、干葉、楢、栃、かや、ぶどうの葉等々の、一方都會では考へられないものを二十何種類にわたつて米の代用食に供してゐます。「かぼちやと大根の葉つばを飯の前にうんと食べてから飯を食べる」といふ話も容易に想ひみることが出来ます。自分の村では、自分の家ではこんな状態は見られないといふ人があるかもしれませんが、この國の中で、儲かにこゝろいふ生活をしてゐる人々があるといふことは私達にとつて實に大きな問題であります。

#### ―副食物の貧しさ―

次に副食物の貧しさは米の關係以上に農村のひどさをハッキリと示してゐます。殆んど味噌汁と漬物以外には時々煮付を添へる位が關の山でせう。その外では小晝飯と稱して甘藷や馬鈴薯、焼餅の類を間食する位のものでせう。

農村の食物をよく學者は動物性、植物性と機械的に區別してゐますが、動物性といつたところで都會のやうにバターや肉類を食べてゐるわけではなく、せいゝ目刺しか鹽鮭か鶏卵

位なものにせう。その鶏卵にしたところで、お客とか病人とかに出すのが多いのでせう。又、植物性といつても大部分は菜つばや芋です。芋は米の代用食として大切に貯へ大根や茄子も澤山とれた時に干しておいて冬ごもりの大切な支度となるのです。お金を出して購入するものと云つては、豆腐、油揚げ等々、何れも客用とか、佛の命日に使はれる程度でせう。昭和七年に福島縣で學童の辯當を調べましたら、持つて行けないのが一割一分、たとひ持つてゐても、その六割は漬物だけか、鹽、醬油をかけたただだつたといふことです。こんな調子ですから、農村は御馳走といつても先づ誰よりも一家の主人たる男子、次にその子供といふ順序でせうし、その子供さへ漬物だけの辯當、朝晩とも味噌汁といふにいたつてはおよそ主婦の食物などはどんなに惨めなものであるかわかりません。めしが足りないといへば先づそれを芋で間に合はせるのも主婦でせうし、まづい物の残り耐へねばならないとすれば、それを是が非でも引受けるものも差しづめ主婦といふことになりませう。

#### ―被服の問題―

こうした事情は被服の方面にもありませう。いな、婦人の被服の場合には都市と農村の開きは更にハッキリと大きくなつて參ります。窮乏地の農村などでは婦人の着物は裝飾用など

は愚か、暑さ寒さを凌ぐにも事欠く有様です。昔の着物は盲織の手製の木綿物ばかりでしたが、今では買ふ物が多くなり、九州四國方面の比較的豊かな農村などに行けば、いろ／＼の色彩を見受けますが、まだ東北地方などにはいまでも色でいへば黒一色の色調に乏しい地味な暗い服装が多いやうです。

こゝでも前の田山村調査を見ますと、男の着用率の多いシャツとか、肌着とか、ズボン下、ズロース、袖無下着類は新品の既成品が相当多いのに反して、女の着用率が高い襦袢袖無着物、袷着物等はたいてい手敷ですし、假令既製品でも古着が多いといふ興味深い事實が現はれてゐます。

「食ふ米もないので古着が大流行です。晴着も古着屋で買ひますし、新しいものといつては盆に冠る手拭位のものでせうか」

こゝいつた青森の一農村の生活は、都會の労働者のやうにお内儀さんがまだ質におく着物の餘裕を持つてゐるのに比べて、まだくすつと低いものです。

又、田山村の調査には次のやうな感想が載つてゐます。

「この村で下着を着てゐない人が多いのは下着に對する觀念が乏しいためだと思はれる。従つて若しゆとりがあれば、先づ上着を購入し、下着は大方問題にされてゐないやうに見える。洗濯のことも初めは着替がないため洗濯しなかつたのだが、今ではそれが習慣性になつてゐるかのやうに思はれる」

又、シャツ、肌着類を持つてゐない人が全體の七分の一もあり、それらの者はじかに襦袢を着てゐるか、じかに袷、綿入を重ねて着てゐるし、また袷綿入も僅かに一人當り二枚見當ださうです。

序にその村の夜具をみると、薬床と綿蒲團を併用したものが多いのですが、その薬床とは寢部屋一杯に薬を敷いたものです。掛蒲團もたゞ布を何枚も縫ひ合せたものを使つてゐます。

兎も角も、着物にしても布團にしても、切れれば、その上その上と斷ぎを當てゝ使用する期間は殆んど無期限と云つて差支へないのです。従つて田山村の人は織ぎは出来ても着物が縫へないといふ人が全く多いと調査者は驚いてゐます。

### — 住居の問題 —

最後に婦人の關心が最も深い竈、また住居一般について簡単に述べませう。こゝでも都市と農村の開きが大きく眼につきます。尤も都市にしても貧しい給料取りの主婦、労働婦人、勤勞婦人にとつては、疲れて歸る我が家が小さい借家であり、花一つ飾る餘裕もない家計では、休息、通風、採光、煖房、臺所、下水、便所等に對するどんな注文も一遍の儂い夢でせう。だがそれでも、農村の惨めさくらべてはまだまだと申せます。殊に東北に行くとき明かに人と馬の共同生活なのです。

一體に農家は休息するための住宅も、農業工場としての仕事場も、副業其の他蠶の飼育所も、一緒くたに一つところを使ひます。例へば間に三尺位の暗い土間がそのまゝ竈を据えて臺所ともなれば、農具を置いて仕事場ともなり、雨の日なれば風呂桶を据えたお風呂場ともなるのです。家といつても厩舎も寢所も臺所も麥搗場、稻搗場も何のしきりもなく、一ヶ所に雜然と投げ込まれた感じでした。暗くて不便で、天井も張らず、塵埃も一杯になつた粗末な通風も採光も考へられてゐないところです。

#### ―臺所の改善―

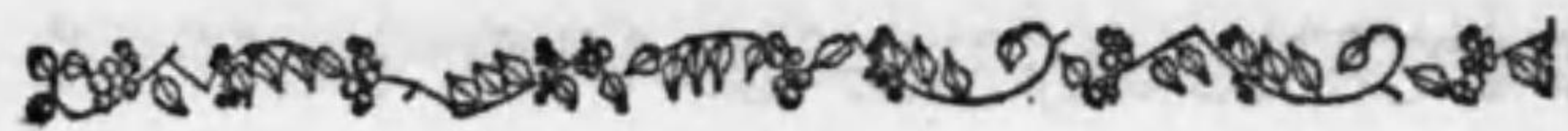
ガスで火をおこし、指一つひねれば水の出る都會の婦人の仕事に比べて農村はどうでせう

同じ飯を炊くにも、板の間に自在鍵を垂れて鐵鍋を吊す、井戸から手桶で一々水を汲む、爐に焚く薪は一々山から背負つて歸る、折つて一々焚きつけるのが一役、あつちに飛び、こつちに飛び、こんな手ひまのかゝる仕事も農村婦人なればこそ負擔しなければならぬのです。

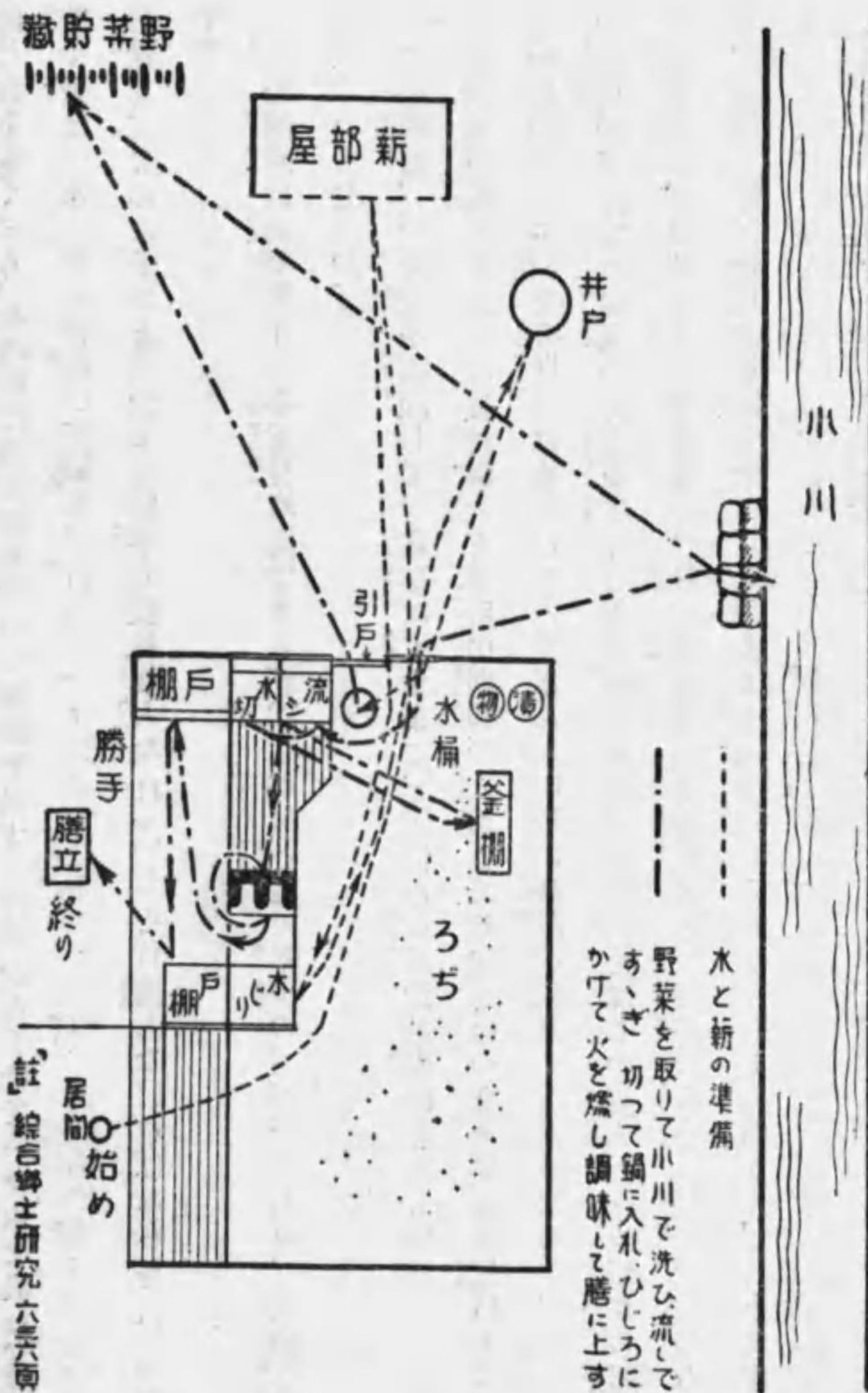
左の圖解は山梨縣下の臺所見取圖であるが、これは各地で多少のちがひはあれ、大同小異ではないでせうか。

この線は、一野菜を調理して、食膳に上すまでの位る歩くかを表はしたものです。これによつてみてもどんなに農村婦人と臺所の問題が大切であるかはつきりすると思ひます。一枚のガラス板を臺所にはめ込むことがどんなに暗い臺所を生きくゝとさせるか、又は籠の改良がどんなに婦人の勞力を省くことが出来るか。更に又忙はしい婦人が一々畑から歸つて足を洗ひ、臺所に上つて食事の仕度に疲れることを思ふと、簡単な食卓と椅子をしつらへて、家族全體が野良から歸つたら、そのまゝ土間の食卓に腰を下して食事をすることにすると、どんなに婦人が助かるかしれません。産業組合婦人會で現にこゝろした設備を組合當事者と相談し、補助金を得て、村全體に及ぼそうと努力してゐる所も出來て參りました。





—その他—  
 更に又、風呂の問題も、農家では大抵貰ひ風呂です。垢で眞白に汚れた最後の貰ひ風呂に慎しげに入りに来る近所の若い嫁が、一村のほめ者にされる位にこま鼠のやうに働いた一日中の仕事の疲れを暗い風呂のかけで涙ぐみながら流してゐる姿をよく見かけることがあります。  
 こういふ施設も組合の利用事業の一つとして共同浴場をたてられるやう婦人會の努力が致されてゐるわけであります。  
 暖をとるにしても、風の隙間の多い冬の農家では爐が命より二番目の役目をしますが、それだけにその年の薪のとれ具合で婦人が薪の燃やし方まで手加減し、炬燵の堀り方まで人知れず心を配らねばならないのです。  
 恰度婦人の仕事は野良働き、家事、母親といくつにも身を割いてゐるのと同じやうに、作業場、厩舎、寢室といくつもの役割を持つた農家の中で、疲勞と心勞を積み重ねて行くので



#### 四、野良で働く婦人とその施設

—澤山な野良仕事と家事の負擔—

最後に、野良で働く農村婦人の苦しみを軽くすることも産業組合婦人運動の任務であり、これはなかなか打開に困難ないろ／＼な事情があると思ひます。

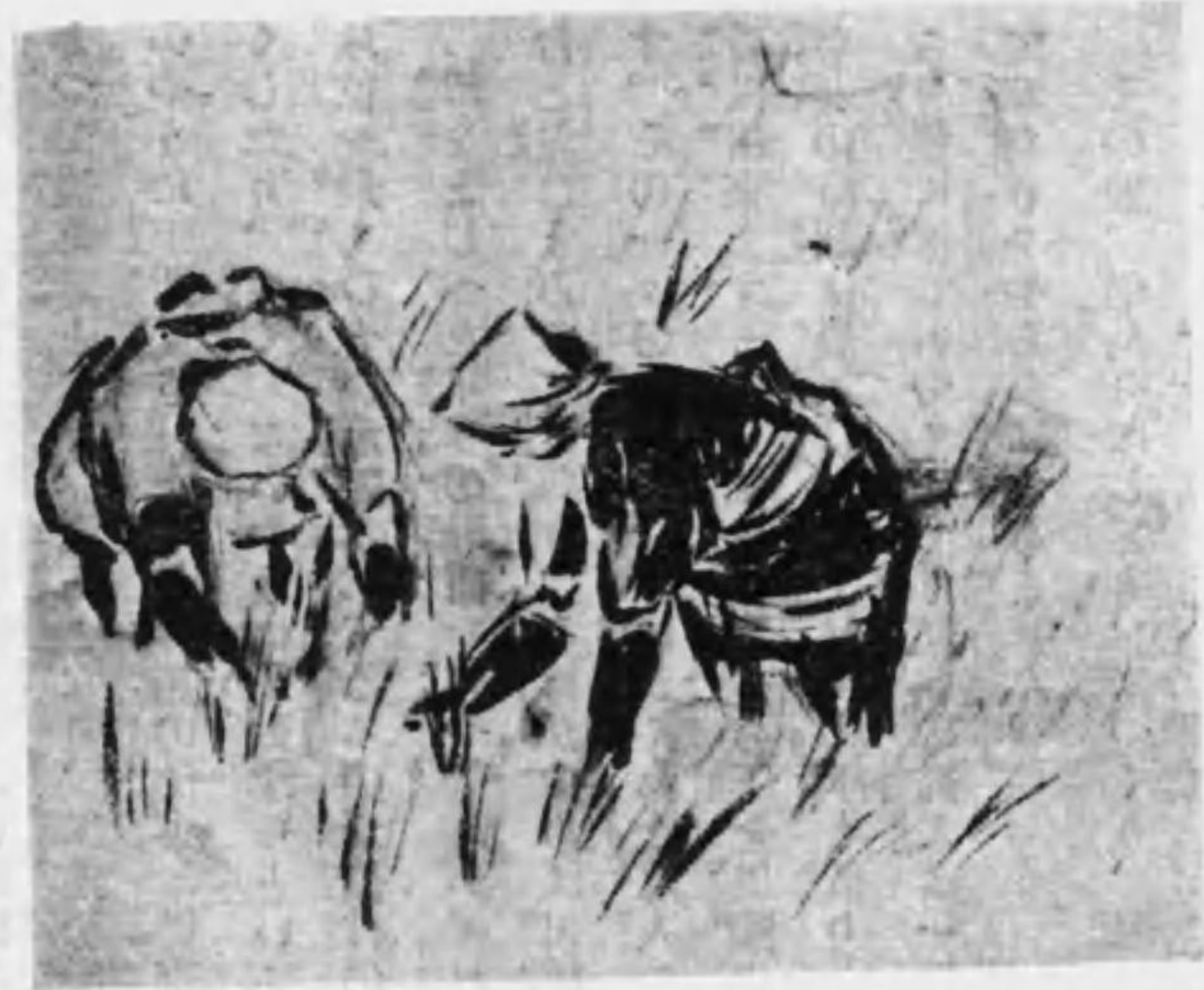
サラリーマンの一家の主婦でしたら、その仕事は家事だけに専念し、消費労働に關係するだけで生産的労働を直接に負擔しません。勿論その爲めに女性が夫たる男子に經濟的に依存する風が出て來ますし、考へようによつては、家庭の仕事がだん／＼合理化され軽減されるに従つて、その依存の程度も強くなり、その地位が無力化してゆき、甚しきは單なる愛玩的な存在とさへなり易いと云へませう。

ところが農村の婦人はどうでせうか。寵の番人となり、やりくりの仕様のないやうな家計の辻褄を合はせる上でも、都會のサラリーマンの主婦などとは比較にならない苦勞を味ひながら、しかも昔のまゝの手を使つての澤山な生産労働、あの野良働き、養蠶、出稼ぎ内職と

いつたやうないろ／＼の労働をしなければなりません。つまり農業者とは名ばかりで季節によつて農業者となり、商人となり、工業労働者、運輸労働者等になりますから、従つて労働者のやうに専門化された同じ種類の仕事に従事してゐるものがより集つて、自分達の地位を良くしたり、悪くしないやうに運動するといふ上にも中々不便でせう。つまり弱い無力な女の地位を最もひどい形で示してゐるのが農村の女性であると思ひます。

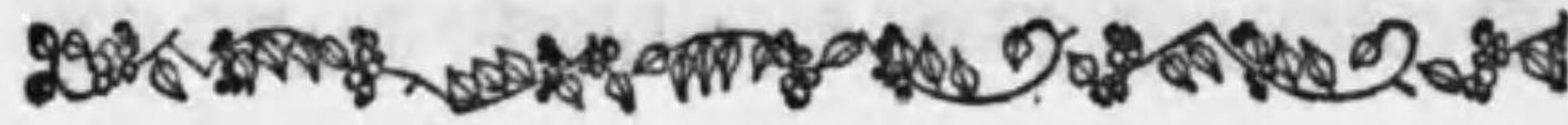
雪をまじへた早春の野面で輝や、あかぎれの痛さも忘れて、田打ちを始めます。それがすむと泥にまみれて麥蒔き、それがすめば田植、草刈等、これは最も忙しい野良仕事の時期です。その一々の仕事のかげにかくれた婦人の苦勞は、都會よりの旅行者の眼などには容易に看破出來ずまい。低へば腰から下を田圃の汚い水につかつて働く田植、一日腰をかゞめて草刈の時期は農家にとつては猫の手も借りたいほど忙しい時期なのですが、そんな時はいくらか身體に毒であつても、月経期の婦人は一日田につかつて働き、妊婦は一日腹をおしかゞめて草刈りをやらねばなりません。

その他、稻刈りにしても、米つくり、纏つくり、俵拵へ等にいたしましても、どれをとつても婦人が男子と肩を並べて堂々と一人前の仕事をしてゐます。



田植え

しかもそれが季節と結びついた仕事ですか  
ら、二、三日仕事を遅らすと、出来榮へにひ  
どく影響して参ります。全く暗いから暗いま  
での生活、これが農村婦人の労働の姿です。  
まだ一番鶏がやつと鳴き初めた眞暗な野面に  
霜に凍てついた田甫路に沿ふて、蔬菜を山と  
積んだ車をカラ／＼と走らせる農家の父娘や  
夫婦の忙はしげにゆらく提灯を見かけられる  
ことでせう。また薄暗がりの早朝の野良に懸  
命に鉄をふり上げる逞ましい姿も見受けられ  
ます。殊に主婦の場合には誰よりも早く起き  
て飯拵へをし、一日田島で働き、夕方は夕  
方で一足先きに歸つて仕度とる手もおそしと  
鍋釜の下に炊きつけなければならぬのです



大根洗ひ

全く忙しい時には一日十五、六時間も働くと  
申しますから、食つて眠る時間の短かさは推  
して知ることが出来ませう。  
しかもこの十五時間にしても男と女では大  
きな開きがあるのです。男子ならば先づ一服  
先づ一杯と寛ぐことも出来ませんが、そのひま  
に婦人は家にかけて上つて子供に乳を含ませた  
り、うす暗い土間にしやがんで鍋釜の下に炊  
きつけたり、洗濯をしなければなりません。  
尙ほ春の味噌たき、秋の冬籠の仕度、菜の葉  
や大根の漬物づくり、寒々とした小川の太根  
洗ひ等々。

— 養蠶の忙しさ —

殊に養蠶の忙しさはどうでせうか。このさ

かりの時期は田や畑の仕事が忙はしい時期なのです。晝間は晝で春に子供を存負つて野良の中をかけ廻つてへとくにつかれ、その疲労から恢復するひまの少しもないうちに、夜は夜で帯も解かずに何度となく起きては蠶の世話をしなければなりません。鈍い電燈の下で自分の子を育つてゐるやうな心配りをもつて蠶に桑の若い身を與へたり、温度の調節を計つたり、虫眼鏡で發育状態を調べたりしなければならぬのです。こんな時は働く時間はおそらく平均正味十八時間にも及ぶといひますし、しかもこんな日が一日や二日といふのではありません。おそらく都會の人にしてみれば愛兒が危篤にでもならない限り、こゝした夜を通しての経験は尠いと思ひます。

—國富の動力となつてゐる農村婦人—

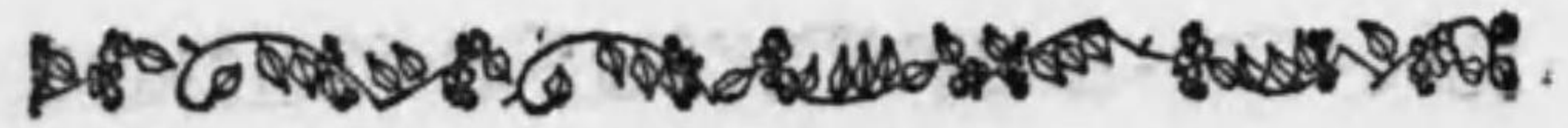
しかし、それにしても、こんな農村婦人の辛い労働はどんなに酬ひられてゐるのでせうか。我國の經濟力が、こゝ五、六十年大いに發展したといふかけには、生糸の輸出が大きな力となつてゐるのですが、生糸はこの經路を辿つて農村婦人の労働が生むところの苦惱の結實であります。繭を母がつくり、娘が工場でそれを糸に紡ぐといふ風に、純粹に女ばかりの手でつくり上げるものです。アメリカからの莫大な生絲代金が我國の經濟循環をどんなに



蠶を飼つてゐるところ

活潑にしたか、そしてそんな經濟循環のおかげ、どんなに國富が増したか、つまり生糸がどんなに國富の増大に大きな動力となつたかを考へますと、それに対して農村婦人に酬ひられたものが、十八時間の労働と僅かに六時間の睡眠に過ぎないことはまことに矛盾極まるやうに思ひます。と同時に何か襟を正さないではゐられないやうな嚴肅な矛盾を感じられるでせう。

しかし、養蠶だけならまだよいのですが、近頃は養蠶が収益割れを呈したり、その儲けが全く少くなつてしまつたので、新しい副業や、内職、出稼ぎ等がどしく初められ、それにつれて婦人の仕事は耐へ切れないほど多くなつて來てゐます。地方々々でこの副業なり内職なり、出稼ぎなりの種類は更に多種多様となつてゐますが、何れの地方に行つても婦人がこれ



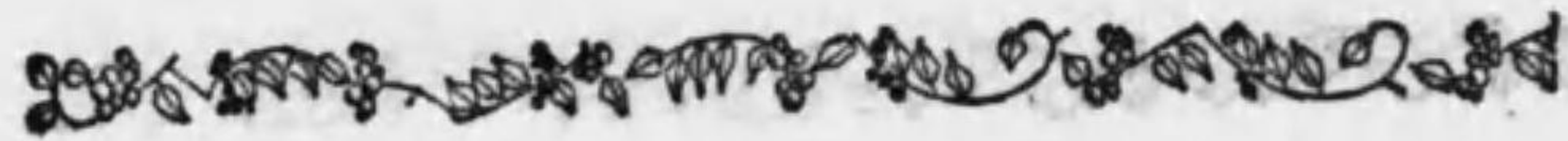
はと思ふやうな仕事をまで、負擔してゐるのに驚かされます。麻が算盤がいゝとみんな麻を作り初める。薄荷が有利と知ると早速みんながそれに轉じる。女工の賃銀が割りが宜いと聞けば、我も我もと女工に走るといつた具合です。

しかしこんな調子で一時にみんなが始めた仕事に宜いといふのは大抵束の間で、忽ち旨く行かなくなるのです。従つてまた他の仕事に移るといふわけで、その變轉のはけしいことには驚かされます。そしてその度に婦人は家事や家計の心配の上になほ新しい仕事と幾重にも心勞を積み重ねて参ります。

―働く農婦と産業組合婦人運動―

働く農婦としての生活を根本的に改める爲めに産業組合婦人運動が全然無力であるとは考へられませんが、残念ながら現状では決して誇張するほどの強い組織化は見られません。

これには我國の農業經營が、各自の家族を一單位として行はれ、主としてその勞働の型態が家族勞働であります爲めに、横斷的に働く婦人だけの組織といふハッキリした組織を持つ基礎に乏しいのです。尤も部落的に共同耕作なり、共同農業經營なりが行はれて現實に婦人が一團となつて働いて居る場合には、事情は變つて参りますが、こうした例には極めて乏し



田圃での働

いのが偽らざる現状であります。もつと生産の方法なり、生産する當事者の間の利害關係が變つて來ないと、無理であるといふ見方も一應は尤もですが、一方に農民組合婦人部なり、類似の婦人運動なりが起された例を見ますと「働く婦人」としての自覺に根ざした農村婦人運動は最も關心が拂はれていゝことではないかと考へます。

「働く婦人」が澤山に出て参りましたから、我國の一般的な婦人運動の相貌もずつと變つて参りますし、それと無關係に農村産業組合婦人運動が發展しましたら非自主的な運動と何等撰ぶところのない

運動となつてしまふのではないでせうか。  
即ち母として、寵のあつかり手として、また野良の働き手として、何重もの負擔の中からそれらを貫く最も強い力として、野良の働き手たる農村婦人を最後に強調し、組合婦人運動の自主的な基礎を強調する所以であります。

## 五、その他の生活

以上のやうな生活を見ますと、その他の文化的方面も殆んど名ばかりであることがよく想像出来ます。

### —保健衛生問題—

先づ、その第一は保健衛生の問題です。子供が急病で村はづれの醫者を迎へたが、一本五圓の注射料が拂へないと正直に答へたばかりに、斷られ、そのまゝ死なしてしまつたといふ例は農村にはいくつもありません。

小作農の賣藥費も含めての一ヶ年の醫療費が社會局統計によるとたつた一戸當り十八圓しかもその内容をみると下層な者程、賣藥や、針灸、マツサージ費の割合が多いのです。又

人口と醫師の割合は都會と農村で非常に開きがあるし、従つて多産と併行して死亡率も高いわけです。この苦惱を一番まともに感じるのが農村婦人でせう。普通の時も家族への健康の氣づかひは大きいでせうが、間の悪い時などは、夫と子供に寝込まれ、姑の愚痴をかかされ自分も懐妊しながら、朝から田に出たり、炊事をしたり、野菜を賣りに出かけたり、歸路に醫藥を求めて歸れば、看護もし、家人が寢静まつてからも明日の藥價の無理算段、家計をあれこれやりくりしなければならぬのです。醫者のない村ではどんな嵐の日でも何里とある夜の山道を越へて危篤に陥つた病兒を背負ひ、隣村までかけつけることもあるでせうし、やつと醫師の門を叩いた時は脊中の病兒が冷たくなつてゐたといふこともあるでせう。

しかもこんな苦勞をする主婦や母それ自身はどうかと見ますと、統計が證明してゐるやうに榮養の吸收が一番悪いのです。彼女達の死亡率は極めて高く、しかも大部分は早死です。病氣に罹る率は割合少いのですが、死ぬ率は多いのです。即ち生命にかゝはる大病でないといふ醫師の門を叩かないといふ所に農村婦人の苦勞がよく現はれてゐると思ひます。現にその罹る病の種類をみても女の方は榮養不良や過勞に基づく病が多いのです。トラホーム、結核性疾患、リウマチスがそれです。

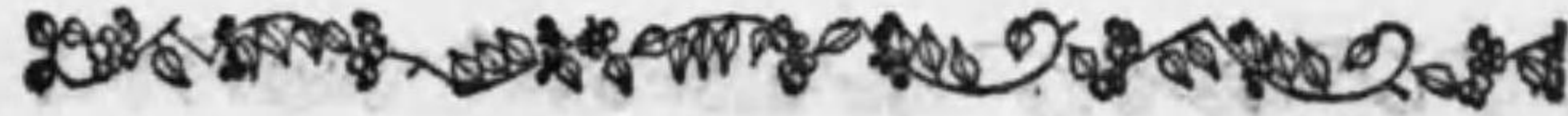


保健衛生の序でに託児所のことを簡単に觸れませう。  
 「乳呑児をあづかつて欲しい。序でに飯も食べられるやうに、もつと手軽にあづけられるやうに」こうした要求は、農村婦人の間では強く起つてゐます。託児所が出来ても慈善事業的では不安定だし、村でやるとどうも形式的になり易く、一々鼻の下でもきれいにふいて出してやらなくてはならず、却つて樂になるより手がかゝつたり氣兼ねだといふ聲もあります。欲をいへば、所謂「預りつばなし」でなく、母親の手拔りを補つて、子供に團體的な訓練を與へ、適當な教育まで與へるやうな施設が欲しいものです。

#### — 娛樂・慰安 —

最後に娛樂とか、慰安とか、衣食住にくらべて農村では第三義的にも、第四義的にもおしこめられてゐる問題をみます。

慰安といつても農村では活動寫眞などは宣傳映畫以外は接する機会がいたつて少いでせう。前に申上げた岩手縣の田山村で「樂しみは何ですか」と調査員が訊いても殆んど全部が「何も無い」と答へたさうです。白米を食べることが樂しみであつたり、積極的に苦痛から逃れることを樂しみと稱したり、子供の歸省などに自己犠牲的な悦びを感じたりすることが何よりも農村婦人の樂しみの少いことを物語つてゐるでせう。夏の一夜を街道の水水屋の縁



農繁託児所

に過すひとときこそ、せめてもの彼女達の悦びなのでせう。その黙々とした姿、吐息にも似たかすかな樂しみを人は何と見るのでせうか。

### 六、産業組合と

#### 婦人の組織

— 農村婦人の聲を聞いてほしい —

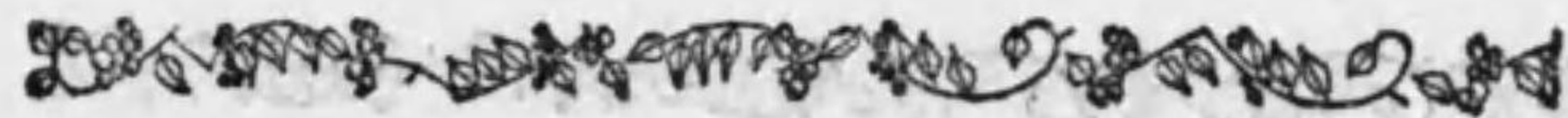
以上述べたやうな婦人の苦しみを軽くするために産業組合はどう活動しなければならぬか。個々の問題に就いては觸れて来たわけでありましたが、これを一應まとめてみます。

満足に獨立し、自立出来る條件に乏しいとしましても、一應は生産者としての



立場を與へられてゐるところの農家では工場労働者が工場主に向つて改良施設を要求するやうな方法が全く無いと云つてよいでせう。強いてこれを行へば、そのまゝ自分達のさらぬだに破産同様の經營が完全に打ち壊されてしまふわけであります。こゝでも産業組合が農村の色々な流通經濟の面で持つてゐる大きな經濟力をうまく用ひることが考へられます。

殊に今迄全く顧られなかつた婦人の生活からにじみ出た聲を聞き、その爲めのあらゆる施設に向つて努力することは六百萬人の農村婦人のために緊急の任務であると同時に、組合運動發展の爲めに



も見逃し得ない大きな要素だと考へられます。成程、産業組合運動の發展と同時に婦人の参加も格段と増しては來ましたが、併しまだこれに對する婦人の關心は充分とは申されません。従つて婦人團體にしましても作れと云はれたから作つたといふ程度でありまして本當に自覺した組織とは云へないのではないかと思ひます。

— 組合と婦人との結びつき —

これは最近、或る縣で聞いた話ですが、或る村で盲腸患者が出、至急手術を要するといふので町の病院へかつき込んだら、手術料を前納すればよし、さもななくばと斷られ、それに憤慨した組合員が各自で信用組合から借入れてやつと間に合せたといひます。所がその時、受けた感銘が、その婦人をして醫療組合の設立に懸命にさせるやうになつたと云ひます。

農村婦人達は、まだ醫療の機會に恵まれてゐない方が多いのですが、一家の主婦として尤も氣づかひな家人の保健の爲めには、せひとも信用組合や購買組合の力を借り、その資金なり共同購入の方法なりをうまくとり入れた醫療組合に協力することが必要でせうし、これによつて農村組合婦人運動が發展したといふ例をチヨイ／＼耳に致します。

醫療の問題に引き續いて主婦の最も氣づかない且最も抵抗力の弱い幼少年層の色々な問題



例へば栄養不良児、 deficit 児童等の問題も農村組合婦人運動の好箇の對象です。これは醫療組合の當事者や、理解深い教育當局と協力して爲さるべき餘地が尠くないと思はれます。

例へば醫療事業を行つてゐる所ではこゝに兒童問題相談所や、家庭訪問看護婦の設備等を行ふことも出来ませうし、又ない所では村の醫者にたのんでこうした施設を行ふことも可能かと考へます。

また食物の問題にいたしましても、國民保健の問題が追々喧しくなつた今日ですから、その率直な營養状態を熱心なる當局に反映させ、その注意を喚起するために色々な婦人の會合を利用することも追々考へられてよいわけでは、又營養婦を設置して農村の營養問題につき徹底的な研究をなすことも緊要の問題だと思ひます。

最後に述べた慰安の問題もそれ等の問題に比してより大切で、殊に運動の初期に於てはいろいろ氣心を知つて居りましても、家族の關を一步跨いで婦人達を引出すには、苦心がいろいろあるものです。ひつぱり出そうにも本人が出たいにも、家族の、殊に姑や夫の一言によつてしづまれ易いし、折角一旦出て來ても、無味乾燥では長續きがしません。やはり皆の氣心を打ちとけさせるやうな慰安なり、娛樂なりを考へて欲しいものです。

現に最近の例を挙げますと、山梨縣の西條組合は農事組合を中心として婦人の組織をやつてゐますし、同じく富士見村の一部落でもそうですが、それ等の村では、はじめ部落の農家が毎月一回づゝ寄り合つて、農事組合の相談をやつてゐましたが、或時、その中心者が「今度はおなた方のおかみさんに集つて貰ひたい」と云つたのが緒となり「よからう」といふことで、最初約二十名の婦人が集り、出来るだけ面白い集りにし、澤庵漬けでお茶を飲みながら世間話程度の一晩を過した。ところがその次からはそのときの面白さにつられて、毎月一回きまつて集り、その度に十錢づゝ持ちより、それで貯金もしたり、菓子代も出したりした。その内には學校の先生、役場の老人、組合長などから改めて村の話や訊いたり、縣の話や聞いたり、新聞を賑はした外國の記事の話も出たりして、だん／＼婦人が家庭外のことに関心を持ち出し、組合運動に對する批判も婦人運動に對する見方もだん／＼芽生えて來たと云ふことです。こうして最初の何軒かゝ組織されると、残りの何軒かゝ自發的に「ぜひ入れて貰ひたい」といふことになり、現にいづれも全部落がこの婦人會に入つてゐるといふことです。そして今までは中心者の家や、組合長の家に毎月集つた習慣を廢し、輪番で各自の家を會合場所にしてゐるとのことです。

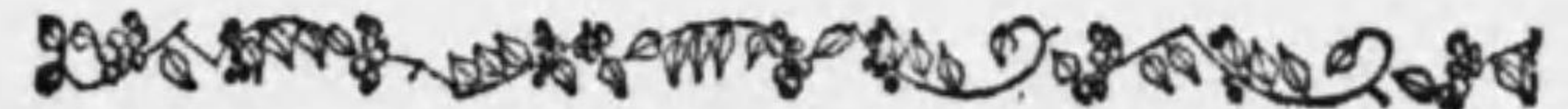


要するにこんな成功を収めた最初の原因はこの中心者が、細心の考慮を拂つて婦人達を倦きさせないやうな慰安なり、娯樂なりを輕視しなかつたことにあるとも考へられます。主婦の娛しみ少し生活の問題をとり上げるにしても、つねにこうした注意は忘れたくないと考へます。



婦人會の集り

その他、信用事業に於いては、借入金をする場合に主婦の連帶署名捺印をさせてゐるといふ組合もあります。これなどは小さなことのやうで、なか／＼問題は大きいと思ひます。何故ならこの爲めに經濟的に何等の發言權もない農村の婦人に些少ながら、それを持たせることにもなり、回收状態もなか／＼うまくゆくといふ結果にもなりません。



又、販賣組合などでは農村の婦人が家計補助の爲めに苦勞してやつてゐる副業品の販賣などに目を向けてくれたなら、やはり家計に對する目を開かせ、組合に對する關心も深まつて來ることでせう。購買品の取まとめも必要のことながら、購買品に對する種々な注文や意見を提出することなども大切な點ではないかと思ひます。こうして組合と婦人との關係を密接にし、眞に婦人の地位向上のために努力してほしいと希ふのは決して無理ではないと考へます。

更に又、全國で三萬人以上を數へる組合製糸の女工さんの爲めにも、何等かの施設を構じて行くことが大切だと思ひます。或る組合製糸の組合長は、先づ何よりも營養食を給する事が先決問題だと云つて相談に來られました。その他女工さんのいろ／＼な條件も好くなるやう、組合も、婦人會も努力する必要があります。

かくして農村産業組合婦人團體は、他の都市に組織されてゐる市街地購買組合婦人會、市街地信用組合婦人會とも密接な聯絡をとり、打つて一丸となつて産業組合運動の眞正な發展の爲めに努力して行き度いと思ひます。

378  
155

昭和十二年九月十日印刷  
昭和十二年九月十三日發行

定價金拾錢

(送料共)

發行所 產業組合中央會

東京市麴町區有樂町一ノ九

著作權  
所有

編輯者 千石興太郎

東京市京橋區西八丁堀三ノ七

印刷者 室野井武

東京市京橋區西八丁堀三ノ七

印刷所 不二印刷社分社

終

